

# 両親と子のトライアドデータを使用した自尊心の親子間相関の検討

## ——親子が認知する養育態度の媒介効果に着目して——

西村由貴子（広島大学教育学部） 清水陽香（西九州大学短期大学部） 中島健一郎（広島大学）

キーワード：自尊心 (Self-esteem), 親子, 養育態度

### 問題と目的

本研究で着目したのは、私たちの精神的健康と深い関わりがあるとされている「自尊心」である。自尊心の低さと不適応感とは密接に関連していることが多くの研究で実証されており、Sullivan (1953) は自尊心の低下に関わる要因について、重要な他者との相互関係の過程を強調し、特に家族の重要性を指摘した。このように、自尊心の高低を決める要因として、家族関係が重視されることは非常に多いが、自尊心に限らず、親子関係についての研究においては、母子間での検討がそのほとんどを占めており、父子間の関連について検討されている研究は少ない。例外として、石川 (1981) は、女子高生の自尊心と両親の養育態度および自尊心の相関分析を行い、母親の子どもに対する支持的な関わりが子どもの高い自尊心と関連していると主張した。しかし、石川 (1981) の研究では、対象者が全て女子であったことから、同性である母親との相関が強く表れた可能性がある。

そこで、本研究では、自尊心の程度が親子で直接関連しているかを検討することを目的とした。また、父・母の自尊心が、父・母の養育態度の認知と、子どもの養育態度の認知を媒介して、子どもの自尊心に与える影響も、探索的に検討することとした。

### 方法

**調査参加者** 中学生とその両親 136 組 (計 408 名) (平均年齢: 中学生 13.4 歳 父親 47.7 歳 母親 45.4 歳)  
**手続き** Web 調査ツール PsyToolkit (Stoet, 2010, 2017) を用い、Web 調査会社 (クロスマーケティング社) を通じて、それぞれ自尊心、肯定的・否定的養育態度を測定した。

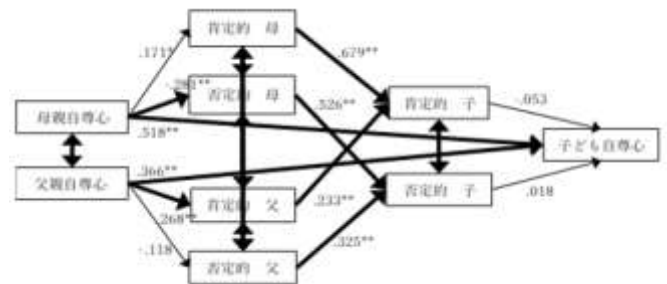
**使用した質問紙尺度** Rosenberg の自尊心尺度 (山本・松井・山成, 1982; 10 項目  $\alpha = .856 \sim .911$ ) 肯定的・否定的養育態度尺度 (伊藤他, 2014; 36 項目;  $\alpha = .872 \sim .924$ ) の計 2 つの尺度を使用した。

### 結果

父・母の自尊心が、父・母の養育態度と子どもの認知する養育態度を媒介し子どもの自尊心に影響を与

えるモデルを想定し、構造方程式モデリングを行った。その結果、適合度の基準を満たしていた (CFI=.975 ;RMSEA=.069 ;SRMR=.063)。

主たる結果として、母親の自尊心と子どもの自尊心に正の相関が (母: $\beta = .518$ , 父: $\beta = .399$ )、母親の自尊心と否定的養育態度との間に負の相関が ( $\beta = -.281$ )、父親の自尊心と肯定的養育態度との間に正の相関が ( $\beta = .366$ ) みられた。



### 考察

本研究により、親子間での自尊心の相関が明らかになった。臨床場面において親子に着目した面接が行われていることを考慮すれば、この知見は心理臨床における親子理解、特に面接での情報収集や見立てに活かすことが予測される。例えば、低自尊心と相関があるとされている対人不安 (岡田・永井, 1989) 孤独感 (工藤・西川, 1983) 抑うつ (工藤, 1992) シヤイネス (相川, 1991) などの様々な不適応感・心理的問題を抱える子どもへの介入の際に、それらの問題の原因の一つとして、両親の自尊心が関係しているという可能性を視野に入れた援助をすることができる。また、両親への心理的援助の必要性も示唆されたと言えるだろう。養育態度については、両親の自尊心と肯定的養育態度との間に正の相関、否定的養育態度との間に負の相関がみられることが明らかになった。しかし、子どもの自尊心への影響は確認できなかったため、自尊心に影響している他の環境要因や、養育態度が影響を及ぼしている他の心理的特性について、引き続き検討が必要であると言える。